

# 粟不稔病特にその病原線虫について

山本重雄・吉井甫

九州大學農學部

粟不稔病は粟の穂に發育不全，花器の枯凋，種粒の不揃及び空實を起す病害である。記録によると本病は明治39年以來九州地方に發生する。本病は一種の線虫の寄生によつて起るもので，中野勝喜氏によつて初めて記載せられ，*Tylenchus* sp. とせられた。著者等は長崎縣五島より得た本病被害粟に就て調査を行つた結

果，本病の病原線虫は *Aphelenchoides* に屬せしむべきことを明かにした。而して本邦に於て禾本科作物に寄生する本屬線虫は稻心枯線虫 *Aphelenchoides oryzae* 唯一種あるのみである。依つて粟寄生の線虫と *Aphelenchoides oryzae* との形態比較を行つたところ，この兩者間には別種と認むべき差異を見出さな

つた。而して稻心枯線虫が粟に對する寄生性を有することを確め得たので粟の不稔病は稻心枯線虫と同種、

即ち *Aphelenchoides oryzae* Yokoo によつて起るものなることを明かにした。

粟寄生線虫と稻心枯線虫との比較表

		口 針	中 部 食 道 球	神 經 環	中央又は 陰 門	尾 部	實 長
♀	稻 心 枯 線 虫	1.8	9.4	12.5	71.6	93.9	650 $\mu$
		1.2	1.8	1.9	2.1	1.3	
	粟 寄 生 線 虫	1.9	10.1	12.9	71.3	94.5	647 $\mu$
		1.4	2.4	2.5	2.7	1.4	
♂	稻 心 枯 線 虫	2.3	11.3	14.6	M	94.2	520 $\mu$
		1.6	2.2	2.4	2.6	2.1	
	粟 寄 生 線 虫	2.1	11.6	14.6	M	94.0	490 $\mu$
		1.6	2.9	3.1	3.5	2.3	